

第1回 **お話と演奏のコラボレーション**
武満徹と美術
 会場 ギャラリーモリタ
 開場 18時30分 開演 19時
 定員 40名 (先着順締め切り)
 入場料 3,500円

【演奏曲】ギター演奏曲
 フォリオス
 エキノクス (ミロの作品にヒントを得た曲)
 すべては薄明のなかで (クレーの作品にヒントを得た曲)
 森の中で(遺作)など、武満徹ギター独奏曲全曲ほか

武満徹は眼の人でもあった……。武満と美術。
 けやき通りの画廊が、武満の色に染まる。
 聴きのがせない! 海外でも絶賛のギタリスト谷辺昌央。

武満徹は20代で当時まだ日本ではほとんど知られていなかったパウルクレーの評論を書いたこともありました。武満徹の作品には、ルドン、ミロ、クレーなどの絵画や彫刻などの美術作品に啓発され、あるいはモチーフにしたものも多くあります。また画家、彫刻家たちと広く交友しています。武満作品における音楽と美術の相互の関連について、ギターの演奏を交えながらお話しします。(大原)

大原哲夫 おおはらてつお
 (エディター、「武満徹全集」編集長)
 1947年福岡県門司市生まれ。早稲田大学第一文学部史学科卒業、美術編集者としてスタート。後に小学館版「モーツァルト全集」「バッハ全集」「武満徹全集」「林光の音楽」等の音楽全集を企画、編集長を務める。その他企画・編集した美術書・音楽書など100冊を超える。2008年に大原哲夫編集室を開設。企画・編集・執筆活動を続ける。また「シリーズ 武満徹の音楽」などのコンサートをプロデュース、その一方で遺作作品・絵画を発表する。音楽と美術に差はないがモットー。著書に「武満徹を語る15の証言」(小学館)「チェリスト、青木十良」(モーツァルト伝説の録音)全3巻(飛鳥新社)。photo © Chizuka Watanabe

第2回 **ピアノとうたのコラボレーション**
武満徹のうた
 会場 ギャラリーモリタ
 開場 18時30分 開演 19時
 定員 40名 (先着順締め切り)
 入場料 3,500円

ピアノ 谷川賢作 (作曲/編曲、ピアノ)
 うた 高瀬麻里子 "まごりん making" (ヴォーカル)
 【演奏曲】
 うたうだけ
 見えないこども
 昨日のしみ
 ぼつねん翼
 小さな空
 死んだ男のこのしたものはかに
 ほかに 谷川俊太郎作詞と賢作作曲の「さようなら」「びあの」「とおく」「私たちの星」「ほほえみ」

ポップスで聴く、武満徹の“うた”。
 まごりんの歌で聴くと、詩が活字で読むよりもずっと深く心に届くのに驚く。…………… 谷川俊太郎

谷辺昌央 たにべまさお
 (ギタリスト)
 名古屋生まれ。東京大学在学中に東京国際ギターコンクールに首席入賞。1999年よりドイツ、ケルン音楽大学留学、首席卒業。ノルバ・カエサリナ国際ギターコンクールなどヨーロッパの数々の国際コンクールで優勝。2005年ワシントン、ケネディ・センターでアメリカデビュー。バッファロー・フィルと共演では、聴衆2000人総立ちの大成功。ドイツ、スペイン、ブラジルなどのオーケストラと共演。2011年より日本での活動を本格化。ドイツMDGより(日本人作曲家によるギター協奏曲集) (武満徹、細川俊夫、林光)をCD世界同時リリース。2013年名古屋音楽ベンクラブ賞、2015年芸術創造賞受賞。

Masao Tanibe
 閉じた眼
 ルドン作 1890年

谷川賢作 たにかわけんさく
 (作曲/編曲、ピアノ)
 1960年東京生まれ。ジャズピアノを佐藤允彦に師事。演奏家として、現代詩をうたうバンド「DivVa」ハーモニカ奏者綾木カとのユニット「バリヤーン」、また父である詩人の谷川俊太郎と朗読と音楽のコンサートを全国各地で開催。80年代半ばより作・編曲の仕事をはじめ、映画「四十七人の刺客」NHK「その時歴史が動いた」テーマ曲等。88、95、97年に日本アカデミー賞優秀音楽賞受賞。近年は作曲、演奏活動のほか各地ホール、団体の音楽監督、音楽プロデュース、芸術アドバイザーと多彩な活躍を続ける。最新CDは「リバーソングス」フランス「セレブ」(JMCK-3009)、「詩は歌に恋をする-DIVA BEST」(COCC-84618)。谷川賢作ピアノソロVol.4 (TRBR-0014)。photo © 片岡隆太

高瀬麻里子"まごりん"
 (ヴォーカル)
 詩人・谷川俊太郎、谷川賢作(a)が大坪寛彦(b)と共に結成した、現代詩をうたうバンド「DivVa」のヴォーカル。代表曲「さようなら」は、矢野龍子を始め多くのアーティストがカバー。子供向けのオムニバスアルバムなどにも参加。「紺野美沙子の朗読会」映画「沈まぬ太陽」「ニュースJAPAN」のオープニングテーマ曲。「あまちゃん」などの劇場音楽やCMなどにも起用される。自ら率いるハモリ女子3楽団「トランスバランス」ではアレンジとコーラスを担当。アカペラや朗読で賑わうライブ、声優、俳優、モデルなど活躍する多岐にわたる。photo © FUKAHORI mizuho

第3回 **お話と演奏のコラボレーション**
武満徹と自然
 会場 ギャラリーモリタ
 開場 18時30分 開演 19時
 定員 40名 (先着順締め切り)
 入場料 3,500円

【演奏曲】
 ヴォイス、巡り、エアなどを予定

今宵、武満の音楽創造の謎が解ける!
 作曲の創作原理とは?
 気鋭の音楽評論家とフルーティストの競演。

創作の原理と自然とのつながり……。武満徹の音楽作品には、木や星、場所、季節、雨や風、といった自然とのつながりを喚起するタイトルがつけられています。そこには、ただタイトルのみではない、作曲家にとっての創作原理と自然とのつながりがみえてくるのではないのでしょうか。タイトル=ことばは、しかし、音楽のイメージを限定するのではなく、作曲家が音楽を発想するものとしてはたらいています。フルートの実演とともに、息、空間、時間といった具体的な側面にふれながら、お話できればと思います。(小沼)

小沼純一 こぬまじゅんいち
 (音楽評論)
 1959年東京生まれ。学習院大学フランス文学科卒業。音楽を中心にしながら、文学、映画など他分野と音とのかかわりを探る批評を展開。現在、早稲田大学文学部教授。音楽・文芸批評家。その他、語々の委員等もつとめる。著書に「武満徹 音」と「イメージ」「ミニマル・ミュージックその展開と思考」「魅せられた身体」「音楽に自然を聴く」他多数。詩集に「しあわせ」「サイコンのド・チャリシ」ほか。編著に「武満徹エッセイ選」「高橋悠治対談選」「ジョージ・ケージ著作選」「楽田南雄著作集」ほか。2015年からはコンサート「村上春樹を「聴く」」の監修。NHK「スコラ 坂本龍一音楽の学校」のゲスト講師で出演。

僕はたくさんの樹々の中に1つの音を求める。自分の音楽として規定された音と、そうでない周囲の自然の音が同じ形の音で存在して欲しい……。武満徹

若林かをり わかばやしかをり
 (フルーティスト)
 京都に生まれる。早稲田大学音楽学部卒業。ストラスブル音楽院、ルガノー音楽院を最優秀の成績で修了。現代音楽演奏コンクール「競奏 X」第2位入賞。平成27年度滋賀県文化奨励賞受賞。NHK-FM「名曲リサイタル」出演。フランス、ドイツ、ロシアの音楽祭などでも演奏を行う。2015年、全曲現代作品によるリサイタル「フルート・イン・モーツァルト」の可能性」を始動し、本年11月5日(土)には近江楽堂(東京オペラシティ)にて、武満徹のフルート作品に焦点をあてた「フルート・フィッシュ」(Vol.3)を開催予定している。

第4回 **お話と映画のコラボレーション**
武満徹の映画音楽
 会場 アクロス福岡 円形ホール
 第1部 映画上映 (上映時間117分)
 開場 15時 上映 15時30分
 入場料 1000円
 一度退出後、同会場で講演があります。
 第2部 講演
 開場 18時30分 開演 19時
 入場料 3,000円
 (いずれも120名様限定先着順)

講演 篠田正浩 (映画監督)
 映画上映 『はなれ替女おりん』

「彼は天使のような優しさがあった。強いと言う点では、絶対に妥協しない。ものすごい直感の人ではあるけれど、その直感を裏付けるための論理はいつも用意をしていた」
 武満徹の古くからの友人、篠田正浩監督の講演です。

「はなれ替女おりん」は1977年公開、岩下志麻主演。篠田監督の代表作の1つ。この映画の音楽を担当した武満徹は、第1回日本アカデミー賞優秀音楽賞を受賞。劇場での名作をぜひご覧下さい。上映後、篠田監督が武満の映画音楽について講演されます。この機会をお見逃さないように。

年間300本、少ない年でも100本も見るほど武満徹の映画好きは有名。65年の生涯に武満徹は100本を超える映画音楽を作曲しました。彼はコンサートホールで演奏される作品と同等のエネルギーと愛情込めて映画の仕事に当たったのです。映画音楽には武満徹の音楽のエッセンスが込められています。武満徹とともに仕事をした同時代の篠田正浩監督によるお話は、武満の音楽を知る上で大変貴重なまたとない機会です。

篠田正浩 のだまさひろ
 (映画監督)
 1931年生まれ。岐阜出身。早稲田大学第一文学部入学。中世、近世演劇を専攻。卒業後、松竹撮影所に入社。1960年「恋の片道切符」で監督になる。大島渚、吉田喜重らと共に、松竹ヌーヴェルヴァーグとして前衛的な作品を発表し始める。1967年春独立プロ「表現者」を妻の岩下志麻と共に設立し、自主制作を始める。2001年早稲田大学特命教授となる。2003年「スバイ・ソルゲ」を最後に監督業を引退。武満徹と共に挑戦した映画作品も多い。主な作品に「心中天網島」、「沈黙」「はなれ替女おりん」、「写楽」等。著書「河原君ノスメモと修業の記憶」(幻戯書房2009年刊)で、第38回泉鏡花文学賞受賞。photo © Mieko Orisaku

Masahiro Shinoda
 篠田正浩監督の映画音楽に関する資料や、武満徹の音楽に関する書籍が展示されています。

第5回 **お話と映画のコラボレーション**
武満徹のオーケストラ・ピアノと歌
 会場 ももちバレス 大ホール
 開場 18時30分 開演 19時
 定員 800人
 入場料 A席 5,000円 (指定席)
 B席 4,000円 (自由席)

指揮・ピアノ 鈴木優人
 演奏 九州交響楽団
 独唱 波多野睦美 (メゾソプラノ)
 【演奏曲】 司会 大原哲夫

弦楽、オーケストラ作品
 1 弦楽のためのレクイエム
 2 ハウス・ローザ・ヴィンド
 3 波の盆
 ピアノ独奏
 4 雨の樹素描 II
 歌とピアノ
 5 ソングの中より

オーケストラ作品
 6 3つの映画音楽より (予定)

鈴木優人 すずきまさひと
 (指揮者。作曲家。ピアニスト。チェンバリスト。オルガニスト)
 1981年オランダ生まれ。東京藝術大学及び同大学院修了。オランダ・ハーグ王立音楽院修了。鍵盤奏者(チェンバロ、オルガン、ピアノ)、指揮者としてバハ「コレウム・ジャパン」(BCJ)や横浜シンフォニエッタなど国内外の公演に多数出演。音楽監督を務めるアンサンブル・ジュネシスでは、オリジナル楽器でバロックから現代音楽まで意欲的なプログラムを展開。指揮者としても2015年の「マイ受難曲」(メシア)「トウラン」(リリアン)などで国内の公演、調布音楽祭エグゼクティブ・プロデューサー。作曲家としても数々の委嘱を受ける。指揮、演奏活動のほか舞台演出、企画プロデュース、そして作曲と、その活動に垣根はなく各方面から大きな期待が寄せられている。photo © Marco Borggreve

波多野睦美 はたのむつみ
 (メゾソプラノ)
 宮崎大学卒業、英国ロンドンのトリニティ音楽大学声楽専攻科修了。1990年にシェイクスピア時代のイギリスのリュートソングでデビュー。国内外で多くのコンサート、音楽祭に出演。ヘンデル「メサイア」や、バハ「マタイ受難曲」などバロックオーケストラとの数多くの共演のほか、現代音楽の分野では関宮芳生作品のアメリカでの世界初演、サイトウキネン武満徹メモリアルコンサート、水戸芸術館での「高橋悠治の肖像」、放送ではNHKニューイヤーオペラコンサート、さらさらクラシック、名曲アルバム、日本の叙情歌、匿名の音楽会等に出演。オペラでは「ホッペアの戴冠」のオッターヴィアなど、深い表現力と存在感で注目される。photo © Toshiyuki Kohno

Mutsumi Hatano
 九州交響楽団
 1953年創立。2013年から「公益財団法人九州交響楽団」となり、九州一円の日設オーケストラとして福岡に本拠地を置く。アクロス福岡での定期演奏会、天神で「クラシック、名曲・年後のオーケストラ」の自主公演の他、青少年向けのコンサート、オペラやバレエ、合唱との共演、ポップス、映画音楽、ファミリーコンサートなど福岡県を中心に九州各地で年間約130回の演奏活動を行っている。福岡市文化賞、西日本文化賞、文部大臣地域文化功労賞、福岡県文化賞を受賞。2013年小泉和裕が音楽監督に就任。CDに「ペルリオス 幻想交響曲」「ベートーヴェン 交響曲第9番」がある。

聴く人を惹きつけて止まない
 美しい旋律、多彩な音色。
 鈴木優人と九響で聴く
 武満徹のオーケストラ作品。
 そして、波多野睦美の歌。

The Kyushu Symphony Orchestra
 九州交響楽団の演奏風景や、武満徹の音楽に関する資料が展示されています。